

河川空間における満足度評価に関する一考察

呉高専 正員 市坪 誠 広島国際大学 正員 長町三生 呉大学 正員 今田寛典
呉高専 正員 山口隆司 呉高専 学員○丸岡弘晃

1. はじめに

水と緑の空間と称される河川空間とは、清らかな流れとその周辺の自然から構成されるものである。1990年に旧建設省（現国土交通省）が通達した「多自然型川づくり」によって、河川とは、本来有している良好な生物環境に配慮し、自然景観を保全、創出することが求められるようになった。しかし、川と地域の人々との関わりはいまだ十分把握されず、これを踏まえた川の個性も認識されていないのが実状である。

そこで本研究では、中国地方の河川において、河川でよく見かける活動、ふさわしい活動の把握を行うとともに、併せて現状の満足度も把握した。これより、地域の人々が求める河川のあり方を把握し、地域性を踏まえた整備指針確立の基礎的資料を得るものである。



図－1 河川空間（簀上橋周辺）

2. 研究概要

まず、中国地方5県における一級河川のうち21ヶ所において、34の活動項目を列挙して“この場所をよく見かける活動”、“ふさわしいと思われる活動”を把握した。次に河川空間の現状の満足度を把握するために、①快適性、安全性、②景観、③川の形、④施設、⑤心地よさに関する全16項目のアンケート調査を行った。続いて、これらをもとに因子分析を行い、水遊び、水生生物観察、つり、ジョギングといった4つの主要な河川活動を把握した。最後に、活動実態と満足度の対応を求めるため数量化Ⅰ類による分析を行った。被験者は、それぞれの河川において地域活動を行っている人々であり、河川ごとに独立している。

紙面の都合上、本論文は、ホテルの広場（山口県防府市）、秋鹿水辺プラザ（島根県松江市）、簀上橋周辺（島根県大原郡木次町）、明星堰水辺広場（岡山県岡山市）の4箇所における水遊びについて検討を行っている。

3. 結果及び考察

3.1 見かける活動“水遊び”に対応する満足項目

簀上橋周辺（図－1）において、見かける活動“水遊び”と現状の満足度との対応を求め、その結果を表－1に示した。決定係数が86.3%と高くこれら満足度で活動を十分説明できる。活動内容に対するアイテムの重要度は、偏相関係数が高いほど重要であり、なかでも0.4以上のときかなり関連あるとされる。

簀上橋周辺で見かける活動“水遊び”は、まず「流れの状態が良いこと」、次いで「ゴミの状態が普通であること」、「自然の豊かさが普通か悪いこと」、「施設の状態が良いか普通であること」、「水のきれいさが普通である」といった住民の満足状態で行われていることが理解できた。つまり、快適性や安全性に大きく影響されることが把握された。また、カテゴリーによる検討から、簀上橋周辺の河川改修するポイントがゴミや自然の豊かさにあることが明らかとなった。

表－1 水遊びと満足度との対応
—簀上橋周辺—

ワード	見かけたことがある活動		重相関係数の2乗	0.863	
No	アイテム	No	カテゴリ	スコア	偏相関係数
1	自然の豊かさ	1	悪い	0.175	0.779
		2	普通	0.047	
		3	良い	-0.607	
		4	該当なし	-0.607	
2	流れの状態	1	悪い	-0.137	0.905
		2	普通	-0.059	
		3	良い	0.964	
		4	該当なし	-0.713	
3	施設の 状態	1	悪い	-0.286	0.739
		2	普通	0.095	
		3	良い	0.239	
4	ゴミの 状態	1	悪い	-0.051	0.804
		2	普通	0.241	
		3	良い	-0.261	
5	水のきれいさ	1	悪い	-0.127	0.508
		2	普通	0.095	
		3	良い	-0.154	

表-2 見かける“水遊び”に対する満足項目

順位	場所	ホテルの広場 (0.732)	秋鹿水辺プラザ (0.942)	簸上橋周辺 (0.863)	明星堰水辺広場 (0.876)
1		近づきやすさ [0.812]	休憩施設 [0.955]	流れの状態 [0.905]	安全の状態 [0.913]
2		入りやすさ [0.798]	入りやすさ [0.920]	ゴミの状態 [0.804]	トイレの状態 [0.886]
3		景色の良さ [0.270]	自然の豊かさ [0.913]	自然の豊かさ [0.779]	ゴミの状態 [0.851]
4		ゴミの状態 [0.221]	水のきれいさ [0.428]	施設の状態 [0.739]	入りやすさ [0.745]

【凡例】 () : 決定係数、[] : 偏相関係数

表-3 ふさわしい“水遊び”に対する満足項目

順位	場所	ホテルの広場 (0.617)	秋鹿水辺プラザ (0.944)	簸上橋周辺 (0.752)	明星堰水辺広場 (0.867)
1		流れの状態 [0.608]	安全の状態 [0.969]	流れの状態 [0.861]	案内看板 [0.839]
2		安全の状態 [0.444]	ゴミの状態 [0.938]	自然の豊かさ [0.701]	近づきやすさ [0.791]
3		歴史文化 [0.417]	流れの状態 [0.909]	水のきれいさ [0.677]	施設の状態 [0.711]
4		施設の状態 [0.254]	景色の良さ [0.856]	広場の利用 [0.551]	流れの状態 [0.532]

【凡例】 () : 決定係数、[] : 偏相関係数

3.2 水遊びにおける見かける活動とふさわしい活動に対応する満足項目

4ヶ所の場所において、見かける活動“水遊び”に対応する住民の満足アイテムを表-2に示した。これより、水遊びを見かける現状において、快適性や安全性の項目（流れ、きれいさ、ゴミ、豊かさ、安全）と川の形の項目（近づきやすさ、入りやすさ）とに大きく影響されることが把握された。

同様に、ふさわしい活動“水遊び”に対応する住民の満足アイテムを表-3に示した。これより、水遊びがふさわしく理想的な状態において、快適性や安全性の項目（流れ、きれいさ、ゴミ、豊かさ、安全）に大きく影響されることが把握された。

続いて、場所ごとの評価を試みた。まず、ホテルの広場において、現状が川の形に、ふさわしさが快適性や安全性に影響されており、現状と理想とにギャップが生じていることが理解できた。

秋鹿水辺プラザにおいて、現状に対し理想の項目は、快適性や安全性がより上位に評価される傾向にあることが理解できた。

簸上橋周辺において、現状と理想とも快適性や安全性が上位に影響されていることが理解できた。

明星堰水辺広場において、現状が快適性や安全性に、理想が施設（散策等の施設、案内看板など）に影響されており、現状と理想とにギャップが生じていることが理解できた。

上記の結果を踏まえ、河川をより満足な水辺空間とするために、河川ごとに地域住民の意見を取得することが不可欠であり、この結果から地域性が把握されると理解できた。

4. まとめ

河川における活動実態と満足度評価との対応を試みた。本論文で得られた結果を以下に示した。

- 1) 簸上橋周辺の水遊びにおいて、流れが良いことやゴミの状態が普通であることが理解できた。
- 2) 簸上橋周辺において、河川改修するポイントがゴミや自然の豊かさにあることが明らかとなった。
- 3) 水遊びの現状について、快適性・安全性と川の形に影響されることが把握された。
- 4) 水遊びの理想状態について、快適性・安全性の項目に大きく影響されることが把握された。
- 5) 現状と理想とを比較した結果、場所ごとに評価が異なり、これより地域性とその指針が理解できた。

本研究は緒についたばかりであり、今後も住民の声を含めた河川のあり方を検討し、地域性を踏まえた河川の整備指針を確立する予定である。

参考文献

- 1) 島谷幸宏：河川風景デザイン、山海堂、1996
- 2) 国土交通省「川の通信簿」：<http://www.cgr.mlit.go.jp/kisha/2002sep/020912top.htm>

【謝辞】

本研究のデータは国土交通省中国地方整備局太田川河川事務所により提供を受けました。付記して謝意を表します。